

ご意見・ご要望等		回答
区分	【鵜の島：保護者】 令和6年12月18日開催	参加人数17人
通学支援・安全対策	鵜ノ島は2小1中で検討するとのことだが、場所は現在と違うところになるのか。また、小学校の通学距離が概ね4km以内という基準は厳しいので、北部校区のようにスクールバス等の検討はできないか。	場所については、敷地の問題もあり、今後の地域協議会で検討していくことになります。また、公共交通機関の利用についても、今後の検討課題となり、地域別協議会で保護者や地域の方々のご意見を伺いながら検討していきます。
	再編は年度の頭からとなるのか。地区の登校時の見守り活動をしているが、不安がある。	R15年度開校予定ですが、4月1日からとも言い切れません。予定は目安であり、具体的なところはこれからとなります。
	遠距離の通学者に配慮し、安全を確保できるよう検討をお願いしたい。	(ご要望)
学校施設	新設校の場所は未定とのことだが、旧学校の施設や跡地はどうなるか。避難所に指定されているところも多いが、今までどおりとなるか。	学校の体育館は、学校施設としてだけでなく、スポーツ振興や防災の拠点としての役割を担っています。特に災害時には避難場所として活用される「地域の拠点施設」でもあることから、学校の適正配置が進んだとしても、地域で有効活用される施設と考えています。
	旧学校の施設や跡地については、災害時以外にも、休日開放などで利用できるようにしてほしい。	(ご要望)
その他	仮に鵜ノ島小が1クラス2人程度の規模になったとしてもこの予定どおりか。	確認できる人口推計ではそこまでの想定はされていませんが、今後設置される地域別協議会でご意見として伝え、協議していきます。
	2小1中となった場合、教員の数はどうなるか。現状、鵜ノ島小では先生数が足りず、スクールカウンセラーも常駐ではなく、月に2、3回程度となっている。	学校統合があった場合、児童生徒の心のケア等のため、状況に応じスクールカウンセラーの常駐について、断言はできませんがその可能性は高くなるものと考えています。
	鵜の島地区在住だが、少人数校の鵜ノ島小に入学することを避けて、わざわざ藤山に家を借りて藤山小に通わせている知人がある。このような現状に対する対策は。	宇部市では1地域に1小学校という意識が強く、また大規模校に吸収されるのではという懸念もあり、2小1中の小中一貫校が新設されてからの統合という計画となりました。それまでは、小規模校のメリットを生かした教育を推進していくということでご理解いただきたいと考えています。
	中学生が加害者、小学生が被害者となる性的な事件も起きているので、保護者として心配である。施設一体型小中一貫校の説明があったが、同一敷地内にあることで、例えばスマホでの撮影等、そのようなリスクが増えないように、配慮・対策してほしい。	先進的な施設一体型小中一貫校において、小学生が中学生にあこがれる気持ちや、中学生が小学生の手本となるような好事例は確認していますが、そのような事例は聞いておりません。今後、課題としてどのようなことがあるのか確認していきます。また、小学生が安心して学べるよう、配慮していきます。
	今西桃山に住んでおり、鵜ノ島小と新川小の選択ができる。近所からは鵜ノ島小を進められているが、その場合は桃山中に進めず、藤山中のみとなるということか。	現在は選択制はありますが、R9年度からは鵜ノ島小の児童は、全員藤山中に進学することとなります。

ご意見・ご要望等		回答
区分	【鵜の島：地域住民】 令和6年12月23日開催	参加人数 28人
通学支援	通学距離は4kmとあったが、低学年などは1時間で歩けない。	今後、地域別協議会を開催し、その中で通学方法なども協議・検討していきたいと思います。
	通学距離が遠くなる子どもは、スクールバスが使えるのか。	スクールバスは、通学距離が4kmを大幅に超えるような北部地域をイメージしていますが、通学方法等については、今後地域別協議会で検討していきます。
学校施設	将来、鵜の島小学校にあるグラウンド、体育館はどうなるのか。	スポーツの振興や防災などの拠点としての機能は残すようになるが、学校施設ではなくなるので、今後の維持管理などは地域の方々と話し合って進めていきます。
地域関係	自治会やコミュニティは残ると聞いているが、現在、盛んにやっている小学校との連携協働は今後どうなるのか。	これからも「学校を核とした地域づくり」は進めていくこととなりますが、1つの地域に1つの小学校という形態は変わることになります。新たな形態での連携を一緒に考えていきます。
	「学校を核とした地域づくり」が求められているが、小学校が地区に無くなったかどうかはよいのか。不動産の物件情報にも小学校の無い地域ということで人が来なくなるかもしれない。これでは、地域の衰退を招くのでは。	淋しい気持ちは理解できますが、子ども達のより良い教育環境についてを最優先に考えた結論についてご理解いただきたい。子どもたちは新しい学校に通い続けるので、新たな単位で地域づくりを考えていただきたいと思います。
	担当は市教委ではないのだろうが、地域担当の部署で検討されているのか。審議の中でのコメントがあれば教えてほしい。	審議における地域の課題についての議論の中では、次代を担う子どもの教育環境を第一に考えられ、新たな枠組みでの地域づくりについて考えて欲しいとのご意見もありました。この点を踏まえて、地域担当の部署とも協議しながら計画を策定しています。
	自分たちは、地域の今後が一番不安だ。子どもたちへの教育だけではなく、地域コミュニティの存続という問題もあるのだから、市長部局とも並行して考えてもらわないといけない。反対運動（署名など）が起きたらどうするつもりか。	審議会でも2年間かけて市民の声も反映しながら答申をいただいたものを踏まえて計画を策定しており、今後どのような不安があるのか、課題解決のためにどのようにしていけば良いのかを教育委員会や市長部局、保護者や地域の方と一緒に考え、この計画を進めていきたいと考えています。
その他	小中一貫校になると交流が広がるメリットがあると思うが、下級生をいじめる等のデメリットもでてこないか。	そのようなことにはならないよう、教員がしっかり指導を行っていきます。
	桃山中学校に近い自治会では、新川小に通い桃山中学校へ進学しているようだがこの自治会の住民をどう考えているのか。	新川小から桃山中に進学する児童がいることも承知しており、審議会においても様々な案が検討されましたが、鵜の島地区の児童数は少なく、地区の児童が全て同じ小学校から同じ中学校へ進学することで、教育環境の充実を図りたいと考えています。
	新川小を選択する家庭が多いが、それは単学級である鵜の島小に対する不安からだと思う。小中一貫校が実現すればそれも払拭されるのでは。	(ご意見)
	2小1中で、連携事業が年々増やせてきており、藤山中を中心に先進的な地区なので、取り組めていけるよう支援をお願いしたい。	(ご要望)

ご意見・ご要望等		回答
その他	適正規模をクラス数だけで考えているが、1クラスの人数を35人にこだわらなければ複数の学級数にできる。小規模の方が質の高い教育ができる。	国の基準もある中、山口県は国に先行して35人学級化を進めてきました。今後さらに1学級の人数は少なくなっていくと思いますが、市独自で先行して行うことは難しく国や県の基準に併せて進めていきたいと考えています。
	適正規模とは、将来的に何クラスくらいを想定しているのか。	3～4クラスを想定しています。ウェブ上でも公開（計画22ページ）しているので、詳細については、そちらを確認していただきたい。
	地域の特色を生かしてと言うが、桃山中と藤山中でそんなに違いがあるとは思えない。	めざすベクトルに大きな違いがあるとは思えませんが、連携先でない中学校に進学する児童は、交流学习や交流事業を実施しても、系統的、連続的な学びという視点において、不安や難しさを感じるようになってきていると捉えています。
	保護者からの意見は尊重していくのか。	今後設置される地域協議会の中で、説明会でいただいたご意見も協議しながら進めていきたい。
	岬と鶴ノ島の違いは何か？岬小は残すのに、鶴ノ島小は無くす理由が分からない。校舎が新しいから、という理由しか考えられない。それを言わずにいろんな理屈を後付けしただけではないか。	岬小は区域変更による適正化がうまくいかなかったことや、すでに全員が常盤中へ進学するので、現時点で小中一貫教育ができていることなどから、今回の適正化からは除外しました。
	地域へのアンケートを行ったと言われたが、そのような記憶はない。宇部日報を見て初めて知り、驚いたのだが。学校運営協議会でもそのようなアンケートは無かった。	実施したアンケートについては、今一度確認してご報告します。
区分	【藤山：保護者・地域住民】 令和6年12月19日開催	参加人数25人
通学支援	通学距離が長くなることが懸念されることから、その安心感を持たすことが重要。遠方になる児童生徒に対しては、親も心配になると思われるので、公共交通機関なども活用した対応が必要になると考える。	通学の支援については、今後も地域協議会の中で色々お話を聞きながら進めていきます。
学校施設	2小1中の施設一体型の小中一貫校が令和15年に開校する計画だが、建設場所は、今ある2小1中のいずれかになるのか。	場所についてはまだ決まっていないが、学校敷地の広さのこともあり、これから検討していくが様々な可能性はあります。
	小学校は災害の避難場所の拠点だけでなく、行事の拠点でもあるので、そのあたりについても適切な対応をお願いしたい。	(ご要望)
	藤山地区は自主防災も盛んであるが、現在は藤山小中、鶴ノ島小とも体育館が新しいので、施設一体型の小中一貫校になることはいいことだが、残される施設については地域でも考えなければいけないが、そこは悩ましい。	学校施設については、市としてはスポーツの振興、防災の拠点などの位置づけがあります。体育館についても例えば、他の場所に施設一体型の小中一貫校が出来たとしても、地域の行事、避難場所の拠点としての活用を考えています。

ご意見・ご要望等		回答
学校 施設	在学中に運動場などに新しい校舎などが建設されれば、子ども達にとって、不利益になるのでは。	学校の建替えは通常、既存の校舎を残し、グラウンドに新校舎を建設、その後、既存校舎を解体する流れが一般的です。どうしてもグラウンドがない状況が発生することになるので、不利益といえば不利益ですが、現状はまだ何も決まっていないので、周辺状況も踏まえながら考えていきたい。
その 他	小さい学校の子も達が大い学校に移る時に不安を抱くと思うので、移行時期は配慮してほしい。	不安を抱く子ども達のケアについてもしっかり対応していきます。
	施設一体型の中小一貫校と義務教育学校の違いは理解したが、実際に通う子ども達にとってのメリットはなにか。	義務教育学校は校長が1人であり、小中問わず、指示命令系統が統一されているので、全員が同じ方向を向いて進めるため、より滑らかな教育環境が提供できると言われています。
	藤山在住の者から考えると鵜の島から来られることは嬉しいことですが、鵜ノ島小学校区のことを考えると通学距離が遠くなるなど課題もあるので、丁寧な説明をお願いしたい。	近く（地域）に学校があることは良いことではあるが、子ども達にとってはクラス替えが出来ないなどデメリットもあるので、子ども達の今後のことを考えながら、鵜の島地区の方たちにも丁寧に説明していきます。
	鵜ノ島小から藤山中に進学するのは、実は当然のことで部活動がないことが影響していた。ただ、部活動については今後、地域移行されていくので、そのあたりは解消されると感じている。	部活動は今後、地域移行されていくと思われませんが、年々子どもの数が減少していけば、部活動もできなくなるなども懸念されるため、そこも踏まえて進めていきます。
	10数年前に「見初・神原」の統合が撤回されたことがあったと記憶していますが、この計画について中止はないと考えていいか。	審議会で2年間かけて市民の声も反映しながら答申をいただいたものを踏まえて計画を策定しており、この計画通りに進めていくことが大事だと考えています。
	色々準備して協議会等も立ち上げたが、地域住民の反対があれば、中止になったり、先延ばしになったりするののか。	
	地域の皆さんで協議をする組織構成は。	地域別協議会は学校運営協議会などからの推薦により構成。藤山、鵜の島それぞれで立ち上げではなく、関係地区（2地区）で1つの協議会を立ち上げる考えです。
区分	その組織を誰がいつ立ち上げるのか。	教育委員会の主導で、各団体から適任者を推薦いただくか、学校運営協議会に母体になっていただくのかなど、今後、学校運営協議会でも今後の方向性について話をしていく予定です。
	先日、開催された鵜の島での説明会で出された意見を言える範囲で構わないが聞かせてもらえると参考にもなるが。	鵜の島は小学生と未就学児の保護者を対象に実施しました。意見としては、「もっと早く統合してほしい」「小学校が近いからここに住んでいるので遠くなれば通学支援をしてほしい」「残された体育館はどうなるのか」など意見がありました。
【神原：保護者】 令和7年1月9日開催		参加人数 5人
再 編 移 行 期	移行期に兄弟がそれぞれが違う学校に通学することになる事が考えられるがどのような対応となるか。	兄弟姉妹が別々にならないよう柔軟な対応をしていく予定です。

ご意見・ご要望等		回答
再編移行期	令和１０年度から琴芝小卒業生は神原中に行くことになるのか。	令和９年度に入学する生徒から徐々に入学していくような方法を考えています。今の小学校４年生が中学校に入学する時に神原中学校に行くことになるスケジュールになっています。
	神原地区、琴芝地区でそれぞれ違う地域で生まれ育った子どもたちだが、地区の違いから歩みの違いがあると思われる。統合により一緒に学校生活を送るようになるため心配をしている。	それぞれの地域で違いはあるかもしれませんが、市全体で共通の取組の部分を生かしながら、児童生徒の混乱が少なくなるよう進めていきます。
学校施設	令和１９年度の神原中学校開校箇所は、今の神原中になるのか。また、開校箇所はいくつくらいに決まる予定か。	令和７年度から地域協議会を立ち上げ、設置場所等について協議のもと決めていく予定です。
	遊具や体育館の整備をしているが、これらは今後どのような扱いになるのでしょうか。	学校が統合しても体育館や遊具がなくなるわけではなく、体育館は特に地域の行事、避難場所の拠点としての活用を考えており、必要な整備は今後も継続していきます。
地域関係	琴芝地区と神原地区の行事など一緒に進めていくことも考えているがいかがだろうか。	可能な限り児童に不安が生じないよう配慮した滑らかな移行が必要と考えています。移行期において、ご指摘のような取組を校長理解のもと、実施できるよう調整を行ってきたい。
その他	小学校の選択性はなくなる予定なのか。	移行期間が終了すれば、将来的には廃止していく考えです。
	令和１９年度から小中一貫となる予定だが、小中学生が同じ敷地内で自由に行き来することは安全面は大丈夫だろうか。	敷地は一緒ですが校舎は別々となります。他市の先行事例もあるのでそれを参考にさせてもらいながら安全な学校生活が送れるよう進めていきます。
	体育館やプールをはじめ、生徒数が多くなれば利用できる時数も限られてくるのではと思うが大丈夫か。	必要な時数の確保、カリキュラムの実施は必ず行っていくべきであり、調整を行っていきます。
区分	【神原：地域住民】 令和７年１月１６日開催	参加人数 １７ 人
再編移行期	R ９年度から、琴芝小学校の子は神原中学校に入学するとのことだが、兄弟で別々の学校に通うことになるのか。	兄弟姉妹が別々にならないよう柔軟な対応をしていく予定です。
学校施設	ここでいう３小１中小中一貫校というのは、施設一体型のことか分離型のことか。	施設一体型の小中一貫校のことです。まずR ９年度に中学校区の再編を行い、R １９年度に施設一体型の一貫校の開校を目指しています。
	新設は令和９年度ではないのか。	R １３年度基本設計、R １４年度実施設計、R １９年度に開校を予定しています。

ご意見・ご要望等		回答
学校施設	3小1中の施設一体型を目指すことは決まっていますが、どこに作るかというのはこれから地域協議などで決まっていくのか。	場所についてはこれから地域協議の中で検討していきます。
	統廃合された学校の跡地の活用について何かあるか。	体育館等は、スポーツ拠点や避難場所として引き続き利用していく予定です。
地域関係	通学区域とは校区と一緒か。	以前は通学区域と地域は同一との考えで校区という名称でしたが、現在は地区という言い方をしており、通学区域と地域コミュニティはそれぞれ別物と考えています。今回の計画においても、通学区域は変更になりますが、地区は現状のままと考えています。
その他	集団規模が必要という一方、岬小学校の小規模校のメリット、9年間一貫と言いながら、クラス替えも必要という。一貫性がないのではないか。メリット、デメリットはあるので、両論併記して、両面について説明するべきではないか。	できれば一定の集団規模を確保したいと考えています。岬小学校については施設が新しいこと、近隣に大規模校である恩田小学校があることから、恩田小からの編入によって2学級以上を満たすことで適正化を図るという答申でしたが、児童数の減少により編入による適正化が難しいことが明らかになったことから、この計画期間中は小規模校のメリットを生かした教育の充実を図ることとしました。 また、9年間の一貫した教育とは、9年を見通した系統的なかつ連続的な学びを実現するために、学校教育目標をはじめとした共通の課題を整理したうえで一体となって進めていく教育を推進するイメージ。クラス替えについては、人間関係づくりにうまく活用できるというメリットがあります。
	人件費や施設管理に経費がかかっていると思うが、適正化により児童生徒の人数減に比例して、経費削減になると考えて良いか。	数字としては持ち合わせていませんが、学校数が減れば人件費や諸経費は減少すると考えています。
	経費や通学区域など、全貌がわかるような説明資料を提示していただきたい。	市のウェブサイトには計画全体を公開しているので参考にしていきたい。また今後、地域協議会の中で様々な資料を提示しながら協議していきます。
区分	【琴芝：保護者】 令和7年1月15日開催	参加人数17人
再編移行期	4年生の娘がいる。琴芝1区から1-10区のは、令和9年度から、神原中学校に進学するという理解でよいか。	お見込のとおりです。
	琴芝小5学年、3学年、1学年の子どもがいる。令和9年度以降、兄弟姉妹で進学する中学校が分かると、学校行事が重ならないか心配である。	行事が重ならないよう調整していきます。また、兄弟姉妹がおられる家庭については、今後、進学先を同一にできる等の配慮が必要と考えています。

ご意見・ご要望等		回答
再編移行期	琴芝小から恩田小に変更になる地域があるが、在校生も令和9年度から恩田小に変わるのか。それとも新入生からなのか。	在校生については変更を行わず、新入生から順次恩田小に入学する方法を予定しています。
	神原小と琴芝小の交流や合同学習については、今年度から計画されているのか。	令和7年度からスタートできるよう、担当部署と相談しながら進めていきます。
地域関係	琴芝1区から1-10区は、令和9年度から恩田小に変更になるが、行政区は琴芝のままなのか。子どもが常盤中に通っているが、恩田地区のコミュニティが強く、琴芝地区の行事に参加しにくい現状がある。	コミュニティについては、これまでと変更なく琴芝地区であると考えますが、小学校区と地区が一致しないことによるやりにくさもあると思うので、今後設置される、地域別協議会で検討していく必要があると考えています。
その他	スケジュールで、令和7、8年度に「地域協議・再編準備」とあるが、どういったことをするのか。計画が変わることがあるのか。	計画は決定事項です。そのことを前提に、令和9年度からの中学校区再編については、新入生から順次行う方法や兄弟姉妹のいるご家庭への配慮事項など具体的に協議していくこととなります。また、新たな3小1中の施設の建設場所なども協議していくこととなります。
	2年間の地域協議再編準備において話し合った結果、令和9年度からの実施が後ずれすることはあるのか。計画通りに進めてほしい。	中学校区の再編については、スケジュール通り令和9年度からの実施の予定です。
	施設一体型であっても、小学校と中学校の先生は別々になるのか。	義務教育学校にならない限り、小学校と中学校の教員組織は別々になりますが、同じ敷地内に小学校と中学校があるメリットを活かし、小中教員相互による乗り入れ授業などは容易になると考えています。
	5、6年生で教科担任制を取り入れるという説明があったが、今の担任制はなくなるのか。もう少し詳しく知りたい。	5、6年生になった時に、1人の先生が1つの学級を受け持つ担任制がなくなるわけではありません。中学校に進学した際の教科担任制に慣れるために、可能な教科について、その教科の一部について教科担任制を実施していくものです。
	子どもが将来、上宇部中に進学することを見越して上宇部バスケットチームに入っている。今後、進学先が神原中になると、それを考慮して何処の誰とスポーツをするのか決めなければならない。	現在、部活動の地域移行を進めている最中であり、これからの地域、部活動の流れをみていくこととなると考えます。
	常盤中、恩田小は建物自体が古くなってくる。建て替えの計画を教えてください。	この計画には常盤中や恩田小等については入っておりません。施設の老朽度や児童生徒数の将来推計等を見ながら、5年後の見直し、もしくは次期計画では検討の対象となると考えられます。
区分	【琴芝：地域住民】 令和7年1月17日開催	参加人数 28 人
再編移行期	小学6年生と4年生の保護者です。変更前は選択変更が可能だが、兄弟のいない子は、初めから神原中に進学ですか。	お見込のとおりです。

ご意見・ご要望等		回答
再編移行期	兄弟が多くいる子どもはどうなりますか。上宇部中ですか？神原中ですか？（我が子は琴芝小学5年生です。）	今の5年生は上宇部中に進学します。今の4年生以下は神原中に進学で、どちらも選択はできるようにしたり、行事は重ならないように配慮していきます。
	中学校再編をゆるやかにするという意味は。また、現在琴芝小4年生の子どもは、一気に神原中になるのですか。	新入生から順次移行することとしており、在校生まで中学校を変更することは考えていません。また、兄弟関係も考慮する予定です。
	4年生以下は第1子は神原中に進学とのことだが、我が家は兄が上宇部中となる。もし、神原中と上宇部中で運動会が重なったら困るが配慮はあるか。	中学校の運動会等の日程は、校長会で検討し、配慮をしていきます。また、文化祭など、どのような行事に配慮が必要か考えていきます。
地域関係	自分の自治会は8割が恩田小に通学。地域コミュニティが大変だ。子ども達は恩田、大人の行事は琴芝。コミュニティがどれだけ盛り上がるかが課題。何かいい方法があれば。	（自治連会長より）改革していくとどうしても混乱が伴う。地域の協議会で改めて検討して、皆さんの意見を聞いていきます。
	自分は琴芝小から常盤中に進学した。今後、恩田小に変更になる自治会だが、琴芝のコミュニティへの愛着がなくなる。今後、コミュニティは、24地区ではなく、中学校区ごとにしてはどうか。	そのようなことは課題として残ると考えています。今後、行政も地域と一緒に考えていきます。
	学校の選択制は、教育委員会が決めたこと。地域住民は反対していたのに勝手にやった。同一自治会で複数の小学校への通学により、子ども会も休止した。地域と小中学校の区割りは思い切ってやらないと。早く実施してほしい。コミュニティの問題もあるので、校区も地域もセットで考えてほしい。	学校選択制は保護者の要望により導入されたものです。今回計画をスケジュールに沿って確実に進めていきます。 また、地域からのご要望があれば、行政も一緒になって今後の地域のあり方について考えていきます。
その他	今は琴芝小から上宇部中に進学。小中一貫教育で上宇部中を基にしているが、連携は途中で切れてしまわないか。	新1年生から順次移行していく予定ですが、過渡期には多少不具合が出ると思われます。いかに滑らかに移行できるか、地域協議会の中でも検討していきます。
	ゆるやかに移行とのことだが、小学4年生が中学校に進学したとき、中1の子は神原、同じ小学校出身でも中2・中3の子は上宇部で、めざす子ども像も違い、過渡期の学校も地域も両方大変。混乱するのではないか。	学校運営協議会や地域の方のご協力を得ながら、混乱が起こらないよう再編を進めていきたいと考えています。
	学童保育を運営しているが、保護者からこの件で質問を受ける。今年4月の小学校の新入生の保護者には、この再編の件は浸透していないと感じるので、説明をしてはどうか。また、小学校の選択制で、コミュニティの運営が難しくなっている。少しでも早くこの問題を解決してほしい。	未就学児の保護者に向けて説明会の周知をしたが、改めて新1年生の仮入学時にお示しするなど検討し、周知をしていきます。学童保育に問合せがあれば、順次神原中に進学とお伝えいただいて構いません。学校選択制で児童数が減少。将来的に選択制はやめていく考えです。
区分	【見初：保護者】 令和7年1月20日開催	参加人数 5人
通学距離	統合の流れは止められないと思うが、改善の余地はないのか。神原中までの距離は最短でも見初小までの3倍程度あり、低学年への負担が大きい。学校選択制をやめるのであれば、通学距離の問題を考えてほしい。	すべての子どもにとってのベストな案は難しいですが、通学の安全は優先されるべき問題です。通学距離が遠くなったとしても、通学路の安心・安全確保ができるよう、今後の協議会でも考えていきます。

ご意見・ご要望等		回答
学校施設	施設一体型小中一貫校の場所等について、現状ではどうなっているか。	今まで出た案を中心に、今後の協議会で議論をしていくこととなります。
	以前、施設一体型小中一貫校の場所が現在の神原中であれば、見初地区としては低学年の通学路の安全確保ができず賛成できないとの意見があった。	今までの議論の経過は議事録等で把握しているので、その内容を踏まえて今後の協議会で議論をしていきます。
学校選択制	学校選択制存続の余地はないのか。	学校選択制については、本来の就学先で入学者数が減少したことや、コミュニティとの不整合など様々な課題が生じたことから、今回通学区域を変更することで廃止することとしたものであり、存続することは考えておりません。
	以前、学校選択制廃止の理由の一つに、兄弟で同じ日にイベントが重なったことがあり、そのような事態を避けるためというものがあったが、それはあくまでも自己責任であり、廃止の理由にならないのではないか。	学校選択制の廃止は、制度実施により本来の就学先の児童が著しく減少したことから、区域割が適正でない現状を実態に合わせ通学区域を再編したうえで、廃止しようとするものです。過去の経緯も踏まえて協議会で議論していきます。
小中一貫教育	統合をスムーズに進めていくためには、それが子どもの育ちに具体的にどのように結びついていくのかを説明すべき。現状からどう変わっていくのかを説明できるよう、教育委員会内で検討を。	今後の協議会で、具体的なものをお示しできるよう準備していきます。
	小中学校両方の教員免許を持っている人がどれくらいいるのか分からないが、義務教育学校の場合、発達段階の異なる小中両方を支援するトップである校長先生がひとりで大丈夫か心配である。県内の事例はどうか。	小中一貫教育の理想形として義務教育学校の説明をしましたが、県内での事例はまだありません。また、現状で小中学校両方の教員免許を持っている教員は少ない状況です。
	小中の教員免許の仕組みは分からないが、相互の乗り入れ授業などは現実的なのか。また、義務教育学校で小中9年制となったときの卒業資格はどうなるのか。	中学校の教員免許は教科に対してのもので、例えば中学校の社会科教員は、小学校の社会科を教えることができます。一方、小学校の教員免許では中学校の教科を教えることができないので、総合学習や道徳の授業に中学校の教員と一緒に授業に参加しています。小学校のときにかかわった先生が中学生で授業をすることは、生徒・教員双方にメリットがあると思います。卒業については、義務教育学校でも、小中それぞれの卒業資格となります。
	他都市の小中一貫校の事例でのメリット、デメリットを把握していれば伺いたい。	交流授業や教員の研修などがやりやすくなったが、異なる学年との交流について、特に小学生から中学生への要望に十分に答えられていないことが課題であると聞いています。また、他地区の説明会で危惧されていたような、中学生による小学生へのいじめや、静粛性が保てないなどの問題は全くないとのこと。
区分	【見初：地域住民】 令和7年1月22日開催	参加人数 16人
安全対策	通学路の安全を最優先に考えてほしい。市・国・県の道路管理者、警察や消防など、うまくバランスを取って進めてほしいと要望する。	(ご要望)

ご意見・ご要望等		回答
通学支援	市街地といっても、統合により、今より通学距離が遠くなる子どもに対して、スクールバスを用意するといった配慮はあるのか。	スクールバスについては、通学距離が4キロを大幅に超えるような北部地域の場合を想定していますので、今のところ、市街地では想定しておりません。
学校施設	見初の統廃合の歴史として、神原小、琴芝小、神原中と合わせて、3小1中の義務教育学校をつくってほしい、という話でまとまっていたところ、神原中の場所に学校を建てるとなると、通学路の安全性を配慮してしてほしいと改善要望を出していたが、教育委員会がそれを蹴った経緯がある。 神原小の位置に学校を建てるのであれば、何とか安全性を担保できると考えているが、神原中の場所となると、見初地区としては賛成しない。	(ご意見)
	現在の学校の場所以外に検討できる土地はあるのか。	来年度から立ち上げる地域別協議会で話し合っていくこととなります。 その中で、神原中への通学路の安全性の件も再検討できるかもしれないので、いろいろな可能性があると考えています。
	10数年後に、施設一体型の「小中一貫型学校」をつくることをめざしている、ということか。	お見込みのとおりです。
	見初地区の具体的な話をしてほしい。どこに学校を建てるのか、など。	施設一体型の小中一貫校の場所をどこにするのかなど具体的なことは、来年度から立ち上げる地域別協議会で話し合っていくこととなります。
地域関係	今回、自治会の再編も行うのか。	学校の統廃合に合わせて再編するという考えはありません。 今後、地域の方から声が上がれば、地域協議会の中で検討していくこととなります。
小中一貫教育	施設一体型における「小中一貫型学校」と「義務教育学校」の違いは。	「小中一貫型学校」は、校長をはじめとする教職員が小中別々に組織され、「義務教育学校」では、校長が一人で教職員組織も一つといった違いがあります。
	市は、義務教育学校をめざしているのか。	理想的だと考えていますが、小中両方の免許を有する教員が必要であり、現実的には厳しい状況ではあります。
	義務教育学校をつくるにあたって、文科省が、「小中のいずれかの免許があればよい」といったようなフリーの考えになることはないのか。	現状においては、そのような方向性は打ち出されていません。
その他	計画の期間が長い理由は。	藤山など、古い施設の建て替えを優先的に進めていくこととなり、設計から完了まで少なくとも5～7年にかかるので、期間が長くなります。

ご意見・ご要望等		回答
その他	この計画は、議会の承認を得られているのか。	議決を要する案件ではありませんが、答申の段階から議会には説明しており、了承を得ながら進めています。
	今、将来的な話をしても意味がないのでは。市長が変わったり、議会で反対されたりすれば、計画が白紙にならないのか。	市長の交代や議会の承認といったご心配もあると思いますが、教育委員会としては、子どもたちにとって必要な計画であるなら、必ず進めていかなければならないと考えています。
	学校はこの土地に建てたい、金額はこのくらいかかる、というように、予算がとれないと進められないので、概算でもいいので具体的な金額等も提示しながら説明しないといけないと思う。そうでないと絵に描いた餅に終わる。	今後、具体的な話を行う際は、行政が一方的に決めるのではなく、概算金額等も提示しながら地域の方々と一緒に検討し、話がまとまれば期間を短縮していくことなども考えていきます。
	施設一体型になると、7歳～15歳の子どもは年齢の開きが大きくなり、いじめ問題が必ず起こるので、不安がある。	小中一貫校を設置している先進校においても、そのような事例は聞いていませんが、小学生が安心して学べるよう、配慮をしていきます。
	今日は、見初の大まかな方針を了解してもらうのが目的ではないのか。細かい部分は地域別協議会で今後話して決めていく、ということで考えてよいか。	お見込のとおりです。
区分	【恩田：保護者・地域住民】 令和7年1月24日開催	参加人数 21人
通学支援	北部地域の厚東川中は厚東小や二俣瀬小から進学されていて、かなり通学に距離があると思うが、スクールバスか何か出ているのか。	スクールバスはありますが、対象は原則小野地区に居住している生徒が対象となっています。
地域関係	自治会は小学校の校区内で構成されているが、一部校区が編入になると自治会連合会や社会福祉協議会など影響が出る可能性があるが、そういった団体とは協議など進められていないのか。	学校の通学区域の変更の計画で、地域とは別に考えています。通学区域は変更となりますが自治会はそのままとります。
	実際に琴芝校区の子が恩田校区の子ども会に入って、自治会がそれに対し援助している。変更するなら現状を鑑み、自治会区も変更して欲しい。	琴芝校区の説明会開催時にも同様の質問がありました。今後は地域協議会を立ち上げて、その中でも協議していきます。
	校区と地域コミュニティに今後歪みが出てくるとも懸念されるが、地域のことも市民活動課と連携しながら進めて欲しい。私の個人の意見は小学校区を辞めて、中学校区のみにすればよりすっきりするのではないかと感じている。	(ご意見)
	校区と自治会が違えば、その自治会行事にも参加出来ないなど不便さも生じてくる。合わせた形で考える必要がある	今後、地域協議会や市民活動課とも協議しながら検討していきます。
	恩田は地域活動が盛んで、自分は保護会の役割として参加している。自治会活動の存続も併せて考えていく必要がある。	(ご意見)

ご意見・ご要望等		回答
小 中 一 貫 教 育	小中一貫校のデメリットはあるのか。	近隣では、埴生で小中一貫校をしているが、学校にデメリットについて聞いてみたが、時にはなかった。ただ、異学年との交流ができるとはいえ、その方法がまだわからないことも多くそのあたりはしっかり確認しながら行う必要があると感じています。
	「施設一体型小中一貫校」について、義務教育学校と同じく、校長が1人で1年生から9年生になるということか。	義務教育学校は校長が1人で、教職員組織も小中1つですが、施設一体型小中一貫校は、同じ敷地内に小学校と中学校があるというだけで、校長はそれぞれに配置され、小学校は6年生、中学校は3年生と現行通りとなります。
	施設一体型の学校とそうでない学校とでは、教育内容や教育環境に差が出てくることはないのか。	宇部市では既に全ての学校が小中一貫教育を行っているので、教育内容に変更はありませんが、小中一体型になれば、児童生徒や教員同士の交流がやりやすくなるメリットを想定しています。
	「施設一体型小中一貫校」が現エリアでこれが実施される計画がある所はあるのか。	現段階では、藤山中を中心とした「藤山小・鶯ノ島小」のエリアは施設一体型小中一貫校として開校したいと考えている。また、次の神原中を中心とした「神原小、琴芝小、見初小」も同様の方向で検討している。
そ の 他	地域の方の不安も解消していくと説明があったが、そこまでしてくれるのかと感じた。そういった子どもの不安が表面化した事例があれば教えてほしい。	どんな事例があったかなどは、今のところ把握していませんが、子ども達が不安にならないよう事前の交流や実施後の心のケアなどしっかりと対応していきます。
	常盤地区から恩田小に通う子や西岐波小に通う子もいる。この常盤校区については学校を選択できる地域になるのか。	常盤小は西岐波中へ進学し、学校の選択はできません。今後も様々な課題については立ち上げ予定の地域協議会の中で検討していきます。
	恩田小は現段階では、そのような計画は考えられていないということか。	この10年間の計画の中では恩田小は対象となっていません。
	地域協議会の設置の予定などは決まっているのか。	現段階では立ち上げは5月を考えています。人選については地域や保護者にも協力をお願いします。
区分	【岬：保護者・地域住民】令和7年1月27日開催	参加人数 17人
全 般	適正規模・適正配置計画の理想は分かったが、来年度、岬小の新1年生は10人という現状がある。今後、新1年生は減少していくことが考えられるが、子どもたちのために、中長期的にはどう考えているのか。	計画は、5年後に見直しを行います。答申でいただいた、区域変更での適正化は難しいことが分かったので、将来的には、統合の方向が想定されます。
	答申では、区域変更により適正化が行われる方向性だったのに、計画ではゼロ回答だった。2クラスに増えると喜んでいたが、ぬか喜びで終わってしまった。	審議会での審議は2年前から行われており、また、児童全員が同時に移行する方向で考えられていました。しかしながら、年々児童数が減少しており、また計画では、全児童同時ではなく、新1年生から移行していくことなどを考慮したことから、1学年2学級が難しいことが判明したことから、本計画から除外することになりました。
	本計画は令和15年までで、今後見直すこともあるとうことだが、岬小は1学年1クラスのままである。希望をもたせるような話をされたことは心外。特色ある学校を作っていくと話されたので、今後尽力していただきたい。	(ご要望)

ご意見・ご要望等		回答
全般	過去の歴史として、岬小では、恩田小からの一部から迎えいれたり、岬小から恩田小へ行ったりしている。今回、恩田校区には説明に行って了解を得たということか。住民の説明について、どのように進めていかれたのか。	現在、琴芝の８５％の児童が恩田小に通っており、今回は、実態に即した変更としています。恩田地区の自治会長には事前に説明しました。
	前市長時代に、岬小と恩田小の統合の話があったが、反対により市長が撤回した経緯がある。小学校は地域社会の核であり、地域から学校がなくなることは懸念している。	児童数が減少していく中で、子どもたちにとって将来にわたり最適な教育環境を提供していくという視点でこの計画を策定しています。また、学校を存続していくためには、学校の維持や教員の配置等が必要となり、その費用は、将来的に子どもが負担していくことにも繋がりますので、ご理解いただきたい。
	先生の手数は、今後、減っていくのか。	学校の教員については定員が決まっています。全国的な傾向ではありますが、現在、大量採用時代の先生が退職し、若い先生が増えています。その結果、育休・産休の先生が増えている一方で、代替えの先生が不足している現状があります。
	いわゆる学力の差について、大規模学校と小規模学校では、どちらが学力が高いのか。	大規模校、小規模校というくくりでの、学力の差はないものと考えています。
	来年度、岬小の新１年生は１０人。今後、中学校に進学する時に、児童の不安の軽減や配慮をしていただきたい。	小中学校で連携しながら、サポートしていきます。
	岬小は１学年１クラスで仲が良い。今回の計画では、学校の老朽化が財源の問題もあると思うが、子どものために考えていくことが重要であり、子どもがちゃんとするのが一番。市として、教員の定数増等について、国や県に要望しているのか。	国や県には要望しています。
区分	【常盤：保護者・地域住民】 令和７年１月２９日開催	参加人数 ５５ 人
通学支援・安全対策	西岐波中に通学するとなると通学距離が懸念される。自転車通学は認められるか。	現在、市内の中学校では通学距離２km以上ある場合は自転車通学を認めています。
	自転車通学の場合、国道を通ることが多い。また、自転車が通りにくい道もあるので、通学できるよう整備して欲しい。	通学路もしっかり検討し、整備が可能なところは整備したいと考えています。
	全国的に少子化が進んでいるので再編は必要と思っている。しかし、子どもの身体的負担、家庭での時間が短くなることを考えると、スクールバスの整備、公共交通機関利用費用の負担を要望。	通学の負担軽減や費用負担についてなど、今後、地域別協議会で協議していきます。
	少子化が進み、学校の統廃合は必要。将来を見据えて、遠距離でも通学できるスクールバスや子ども専用のＢＲＴの整備を進めて欲しい。	(ご要望)

ご意見・ご要望等		回答
通学支援・安全対策	あと2年でスクールバスや路線バスの整備が出来るのか。地域協議の進捗状況を知ることができるのか、自分たちの言葉を届ける機会があるのか。決定したことを知らされるだけでは地域住民としてはわだかまりが残ると思う。少しでも納得できるように進めて欲しい。	地域別協議会だけでなく、皆さんから御意見をいただく機会は持ちたいと考えています。また情報も発信していきたいと考えてます。全員が納得できることはないと思いますが、これだけ議論を尽くして、アイデアを出し尽くしたからこういう方向性で行こうとなるよう、丁寧に進めていきます。
	通学に使う公共交通を無償にする、遠距離通学のために電動アシスト付き自転車の購入を補助するなど、通学への支援を検討して欲しい。	通学の負担軽減や費用負担についてなど、今後、地域別協議会で協議していきます。
再編移行期	R9年度から、西岐波中学校に通うようになるとのことだが、兄弟児の学校が別れた場合はどのような配慮があるか。	兄弟姉妹のおられるご家庭の生徒については、どちらかの学校を選択できるよう配慮したいと考えています。また、学校が別々になる場合は学校行事が重ならないようにするなど、何が支障になるかを検討し配慮していきます。
	常盤小校区を解消して、恩田小校区と西岐波小校区に戻す可能性は検討されたのか。	現在、児童生徒が増加しているのは黒石地区のみですが、数年先は常盤地区も増加見込です。宇部市全体を見ると校舎の老朽化や児童減少がどんどん進んでいるところがあり、そのような状況を総合的に考えて、当面、常盤小校区の解消は検討しておりません。
	則貞・亀浦地区住民の総意として、恩田小校区に入りたいということで地域別協議会でまとまった場合は、恩田小校区に入るという意見は排除しないということか。	お見込みのとおりです。
小中一貫教育	小中一貫教育ありきで話が進んでいると考えている。小中一貫教育による効果の実証的なエビデンスがない中で、なぜ宇部市は小中一貫を進めるのか。建物の老朽化が進む中で補助金も必要かもしれないが、行政が権力を行使して、通学区域を決めるのはいかなものか。学校選択制を廃止するのも、住民の自由な権利を軽視し過ぎているのではないか。小中一貫教育を進めるのは構わないが、住民の意見を聞いて合理的に施策を決めて欲しい。	(ご意見)
	第8回審議会資料によると、常盤中に常盤全区が通学した時のデメリットとして学級数が21学級になるとなっているが、今回示されたデータでは18学級となっており、デメリットは無くなるのではないか。令和10年度に18学級を超えるので、この計画になったと思っていたがその理論が崩壊してる。それでも小中一貫教育を進めるのであれば、デメリットが示されていないので判断材料が不足。デメリットと通学距離が伸びることに対する対応を示して欲しい。	基本的に小規模校、大規模校のそれぞれにメリットとデメリットはあると思いますが、小中一貫教育についてのデメリットは現在考えておりません。通学の安全についてはしっかり対応していきます。

ご意見・ご要望等		回答
小中一貫教育	他の自治体で、小中一貫教育のデメリットとして小5・小6のリーダーシップがなく なるなど示されているので、そういうエビデンスを誤魔化さずにきちんと精査して示 していただきたい。	デメリットが全くない訳ではありませんが、特に学びの面でのメリットがあるため小中一 貫教育を進めているところですが、支援の面でも効果があると思っています。様々な問題 がある家庭に対して、9年間を通したフォローアップが実現できるようにしていきます。
	小中一貫教育を進めるといっているが、各学校のグランドデザインの何が違うのか。 宇部市として住む地域によって、目指すべき子ども像が違って良いのか。 同じ方向性を持つべきではないか。	大きな方向性は、もちろん市で同じものですが、学校運営協議会をはじめ地域とともに学 校を作っていく、保護者や地域の思いを汲み上げた上でのプランという流れになっていま す。
学校選択制	計画を進めていく中で、学校選択制は認められるのか。	学校選択制を導入した地域では、本来の就学先より選択制を利用した学校に入学者が多く なるなど、不整合が生じたことから、今回の計画で整理ができたところから選択制につい ては廃止していく方向性です。 今後、地域別協議会の中で、市の主導ではなく地域から境界地域については恩田に入れた 方が良いという意見があればそのような方向性もありえます。いただいた御意見は地域別 協議会でも提案して協議します。
	琴芝地区の一部は恩田小に通学できるのに、常盤地区はなぜ選択できないのか理由が わからない。	現在、琴芝1～1-10区の児童の85%が恩田小に通学していることから、児童が恩田地区 の行事に参加するなどコミュニティに混乱が生じているため、本計画では、実態に即した 通学区域の変更としており、このような不整合や混乱が生じないため、今後学校選択制は 廃止していくこととしています。学校選択制ではなく、常盤地区の一部から恩田小に通学 するという案の提案があれば、地域別協議会で協議できると考えています。
	地域別協議会において、則貞・亀浦地区は学校選択制を選びたいという同意が得られ た場合、学校選択制も認められる範囲か。	学校選択制によって地域の混乱を招いたという経緯があるので、学校選択制を新たに設け ることはないと考えています。
	令和9年度から西岐波中学校に進学するというスケジュールは早急ではないかと思 う。子どもの通学区域を考えて自宅を建てたので、最低限、今から幼稚園に入る子が 中学校に入学するタイミングぐらいの時間的猶予をみて進めるべきではないかと思 う。	この計画の大きな方向性である小中一貫教育は進めていくが、必ずこのスケジュールどお り進めていかなければならないとは考えていません。そのようなご意見も踏まえて、来年 度からしっかり協議していきます。
その他	このスケジュールは決定ではないということか。	基本的にはこのスケジュールでやりたいと考えています。神原中エリアの説明会では、小 中一貫校の設置がセットになっていることや学校選択制と地域コミュニティの様々な課題 があることから、計画を遅らせないで欲しいとのご意見もいただいているところです。す べての中学校区内で同時スタートではなくて良いとも考えています。
	今後、自分たちの意見をどこに言えばいいのか教えて欲しい。	本日の資料に記載している。教育委員会教育総務課へ電話、メールでお寄せください。

ご意見・ご要望等		回答
その他	常盤地区と西岐波中学校がいびつな関係になっている。則貞と亀浦地区は常盤中学校に後援会費を払っているが学校運営協議会からは除外されている。西岐波中学校には後援会費は払っていないけれど学校運営協議会の仕事はさせられている。	(ご意見)
	学力のことが気になっている。常盤中学校は工学部が近いので関連の授業があるが、西岐波中学校ではそれが受けられなくなる。義務教育学校になると小学校担当教諭と中学校担当教諭がどれだけ連携できるか気になる。	(ご意見)
	介護・介助の必要な障害児などにどのように通学してもらうつもりか。	特別な支援が必要な子どもたちについては、学校の選択制など特別な配慮が必要と考えています。
	小中学校への通学のしやすさ、市街地へ利便性を考えて則貞・亀浦地区を居住地に選んだ。今後、この地域に子育て世帯が入ってこなくなるのではないかと危惧している。	(ご意見)
	この計画は、何年前から決まっていたのか。4年前に宇部に転入する時、教育委員会に恩田・常盤地区がお薦めと聞き、常盤小・常盤中に行くつもりで土地を買って家を建てた。安易に3、4年で変更されることにも納得がいかない。ちゃんとみんなが納得できるように説明して欲しかった。いきなり言われても納得がいかない。	宇部市の教育は地域による特色はありますが、特にこの学校が良いと言うことは無いと思います。いろいろ検討をして今の住居を決められたと思います。この計画はもともと市街地地域について10年以上前から適正配置を進めてきましたがうまくいかなかったため、改めて令和4年度から審議会を立ち上げて、アンケートを実施したりワークショップを開催したり、様々な御意見をいただきながら進めてきたが、その間に子どもたちの数は減少し、成長している。これ以上先送りにはできないという覚悟をもって今回の計画をお示しました。これから地域協議会を立ち上げて、皆さんの意見を吸い上げていながら進めていくのでご理解いただきたい。
	これまでアンケートを取って意見を聞いたとのことだが、ここにいるみんなはそれも知らない間に話が進んでいる。新聞を見て初めて知った人もいる。もう決まった状況で、やっとこの説明会で意見が言えた。これから本当に私たちの意見を参考に取り入れてもらえるのか。	答申も学校運営協議会などに情報提供したり、経過についてもこれまで何度も新聞に取り上げられてきているが、説明会で初めて聞いたという御意見も多く、情報を出していく難しさを痛感しています。今日いただいたすべての意見はWEBサイトにも掲載し、地域別協議会で議論し、途中経過も報告しながら、また今回のように集まっていただく機会を持ちながら進めていきます。
	アンケートを取ったというが、サンプル数はあれでいいのか、あれで本当に意見が吸い上げられたと思っているのか。PTA会長と言われたが地区のことを知らない人もいる。メンバーの選定が大事で、行政がうまくわけのわからない人を選んだら、わけのわからないまま地域協議会の合意を得られて計画が執行される。適切なメンバーが入れるような体制づくりが必要。	どのようなメンバーが適切であるのかアイディアがあれば提案していただけたらと思います。
	今日の説明会の意見と回答を閲覧することはできるか。	後日、市のWEBサイトに説明会での御意見と回答をアップすることとしています。

ご意見・ご要望等		回答
その他	地域別協議会のメンバーはどの様に選ばれるのか。	地域の方にも入っていただくが、常盤地区については保護者の方にメインで入っていただきたいと思っています。地域の方やPTAの代表の方に相談させていただきながら決めていきたいと思っています。
区分	【二俣瀬：保護者・地域住民】令和7年1月31日開催	参加人数 20人
適正化基準	厚東小、二俣瀬小、小野小の3校のうち、いずれかの1校が12人を下回った場合、その小学校が他の小学校に移るといことか。	基本的には、市街地地域と同様に小学校同士の統合は行わないこととしています。連携中学校区域内（厚東小、二俣瀬小、小野小、厚東川中）での施設一体型小中一貫校の設置と合わせた統合について、協議・検討を行うこととなります。
	学校全体で児童数が12人未満にならないために特認校制度の活用があるが、本来の特認校制度の目的ではないが、大規模校に馴染めない児童生徒を受け入れている状況がある。特認校が今後そういう役割を果たすことになった場合、例えば、12人を下回ったからといって本当に統合することでもいいのか疑問に感じる。 小規模校だから、不登校の子どもを受け入れて再生させることができるという役割も大きい。単純に12人を下回ったということで検討の方向になるのか、あるいは、その時点で再度検討するのかどうか、現段階でわかることがあれば教えてほしい。	計画を立てる上で何らかの基準が必要なため、12人未満としています。ただ、その時点での状況を見ながら総合的に判断していく必要があると考えています。小規模校が、課題がある子ども達の受け入れ先という側面はありますが、これから先、児童数がもっと減少し3校が統合したとしても小規模校には変わらないので、今後、様々な状況を見極めながら、また地域の皆さんの意見も伺いながら進めていきます。
学校施設	小学校を統合する場合、場所の選定は、校舎の新しさと判断することになるのか。	場所については、まだ何も決まっていません。施設一体型小中一貫校の設置となると、それ相応の敷地面積が必要となるため、新しい場所を検討することも考えられます。
特認校制度	特認校制度の本来の目的がきちんと果たせているのか疑問である。また、不登校の子どもを受け入れることによる地元の子どもたちへの影響が気になりである。休んでいる子を見て、自分も休んでいいのではないかという気持ちになると思うので、人数合わせのために不登校の子どもを受け入れるのはやめたほうがいい。	特認校制度は、自然の中で特色ある教育をしている学校で学びたいという保護者や子どもの願いを叶えるための制度であり、特別な配慮が必要な子どもを受け入れる制度ではありません。ただ、別の制度で、学校の判断で受け入れているところもあります。
その他	北部地域において小学校が将来的に統合されることになった場合は、楠地区の小学校も統合することになるのか。	本計画では、連携中学校単位（厚東小、二俣瀬小、小野小、厚東川中）で適正化を行うこととしています。
区分	【厚東：保護者・地域住民】 令和7年3月12日開催	参加人数 24人
通学支援	子どもには通いやすい距離の範囲がある。学校を統合すれば合理的だが、子どもが通いやすいことを考えているのか。	統合となった場合は、子ども達に負担がかからないようスクールバスなど考えていきます。

ご意見・ご要望等		回答
適正化基準	北部地域の適正化の方向では、児童は12人未満。特認校制度もある。住基上での推計値での判断か。	計画上はそうにしています。現在、厚東は10人前後、特認校制度での児童がおり、小野も同様です。厚東の児童が急激に減ることはないと思いますが、特認校制度で就学する児童の人数をどのように考えるかについては、5年後に総合的に判断をしていくこととなります。
	厚東小が、12人未満になることはないと思うが、二俣瀬小や小野小が12人未満となったら、小中一貫校となり、厚東小がなくなるのか。	R11年度に5年後の推移を見て検討を進めます。適正化に向けて動き出しても、検討して場所を決定し、施設整備をするには4、5年はかかるため、すぐに厚東小がなくなることはありません。
	厚東小も二俣瀬小も小野小も、児童が12人を切らなければ、このままなのか。	北部地域で、どこも児童が12人未満にならないければ、このままです。
	二俣瀬小の児童が減って、小野も減って、そうなれば厚東も一緒に統合となるのか。	楠中エリアと厚東川中エリアは、5年後の状況で判断することとなります。厚東小の児童数が減少しなくても、二俣瀬小や小野小が12人未満となれば、協議の場を設けさせていただくこととなります。
学校施設	厚東小が、二俣瀬小、小野小と一緒にになるとき、敷地の問題がある。適地は厚東小だと思う。ただ、中学校も体育館を建てたばかりだし。どこか適地があるのか。	厚東小は土砂災害の可能性があり、中学校は施設が新しい。厚東エリアで考えるとしたら、厚東川中あたりで土地を広げる選択肢もありますが、まだ決まっていません。
	施設一体型は、中学校に小学校併設か。それとも小学校に中学校併設か。	場所は白紙の状態です。まったく別の場所に作る可能性があります。様々なパターンが想定されます。
	厚東川中に小学校を統合するのは白紙なのか。例えば、二俣瀬はエリア的に北部の中心の位置で小学校も新しい。二俣瀬小に集約となると、厚東地区住民は反対と思う。そのような課題はご理解いただきたい。	北部地域は、今すぐ動きはないが、経過報告や情報交換などをしながら一緒に考える機会を設けます。
	小野や二俣瀬のことを思えば、ご協力せざるを得ない。厚東の意見も踏まえて、子ども達の学習環境を整えて進めていってほしい。場所は、一考いただきたい。	今後、一緒に考えていきます。
	小学校が将来的になくなる可能性があるからと、建物が老朽化しても設備の更新が後回しになることがあるのか。学校の統廃合は関係なく改修してもらえるのか。	安心安全が第一なので、長寿命化のため、必要な改修は行っています。
地域関係	厚東川中に合併のときもいろいろあった。学校を核とした地域づくりについての研修も受けたが、学校がなくなるとそのような地域づくりができなくなるがどうなのか。	学校を核とした地域づくりという考え方は今後も変わりません。今後は、地域と学校区とを分けて考えていくようになります。施設一体型の小中一貫校がそれぞれの地域の核となっていく考え方で、エリアが広くなるという考えです。
	小学校がなくなると、地域はガタガタになる。ふるさとがなくなるイメージ。北部はもっと後回しにしてほしい。	北部地域を後回しにするため、まずは市街地地域から計画を進めていくこととし、R11年度に5年後の推移を見て検討を進めることとしています。

ご意見・ご要望等	回答
小中一貫校となると、神原と見初では1,000人を超えるのではないかと藤山・鶴の島は近いから、やれば（統合は）できると思うが。	施設一体型小中一貫校は、元々は小中共に人数の少ない学校からスタートしました。今後は適正規模内であれば少し大きいところも取り組む方向性です。藤山・鶴の島の時期が早いのは、適正規模内であるということと、両方の学校施設が老朽化しているためです。見初・神原・琴芝は今現在人数は多いですが、令和19年度開校時点では適正規模になる見込みです。そのため、このようなスケジュールになっています。
楠地域は、中学校が別々だったのを1校にまとめた際に、小学校は統合しないと約束があったと聞いているがどうか。	旧楠町時代、中学校が統合されたときに、小学校の統合はしないという話があったということは聞いたことはあります。今回の万倉、吉部の説明会では、そのような話は出ませんでした。社会情勢は変わっていくので、時代の変化に応じた、より良い教育環境を子どもたちに提供していく必要があると考えています。
住民基本台帳人口を基に審議会で審議されたと思うが、学校がなくなれば帰ってくる人がいなくなる。また、中心市街地で宅地がなくなれば、北部地域でも宅地開発が進むのではないかと。そのあたりが連携された上での答申なのか。	学校の統廃合は、まちづくりと一緒に考えていかないとはいけませんが、立地適正化計画での居住誘導区域は中心市街地となっています。しかしながら、人口減少の中で、今後、市全体で人口増、北部地域での住民増は難しいのではないかと考えています。
4月からの給食の体制について、3校区別々にやっているから、保護者に事前の説明がなかったと思う。情報がしっかりと届くようにしてほしい。	(ご要望)
厚東は学童保育がきちんできているが、小中一貫校になっても学童保育は、その近くでしっかりやっていただきたい（施設も含めて）。	(ご要望)
子どもが少なくなっても、統廃合をしなくていいのではないかと。校長兼任とか、組織を変えていけばいいのではないかと。会社でもリモートを使っているし、学校統合をしなくてもそのように取り組んでいけばいいのではないかと。	各学校に校長1名が配置されるのは法律の中で決められているので、今の段階で変えるのは困難です。子どもが少ないと意見交換も難しく、Zoomを使ったりしながら現在は教育環境を保っていますが、子どもがこれ以上少なくなれば、それも難しくなると考えます。また、これ以上、北部地域の子どもが少なくならないよう一緒に考えていきます。
学校の統廃合は関係なく、建て替えの計画はされているのか。	建て替えというより、現在の学校に必要な整備をしたうえで、長く使っていくための学校施設長寿命化計画を策定しており、それに従って施設の改修等を進めています。また、計画は5年ごとに見直すものとされており適正配置も見据えて、改訂を行うこととしています。
宇部市の施策で財政面のこともあると思う。市街地と北部は状況が違うので、議論がかみ合わない。子どもが減少するから学校を減らすようだが、少人数でも離島には学校がある。適正配置計画は、市街地のように通学距離が近い所から進めてほしい。	審議会の答申から、市街地地域は優先的に取り組むこととしており、北部地域は猶予期間を設けています。また、離島に関しては、学校の設置は法で定められています。
適正な学校数は何校か。	何校というのはありません。今後も、宇部市全体の児童生徒数や学校規模の状況を確認しながら適正配置を進めていくことになります。
現状、市街地と北部を分けて考えている。厚東を考えると、同心円のエリアで西宇部地区も入ると思う。市街地と北部を分けない方が合理的なのではないか。	楠地域でも、楠、厚東川エリアに分けるのではなく一緒にという意見も出ました。また、R11年度では西宇部小も児童が減少する見込みです。5年後の計画改定の際に、学校の状況も見ながら考えていきます。

ご意見・ご要望等		回答
区分	【小野：保護者・地域住民】 令和7年2月14日開催	参加人数15人
通学支援	「8 計画の進め方と配慮事項」の「②児童生徒の通学支援」について、予定しているのであれば前倒しで実施できないか。またスクールバスの小中共同利用やバスの便数増などはないか。	スクールバスについては、補助の関係で利用範囲が限られますが、活用を考えていきます。また、市営バスについては、令和7年度予算案で、小中学生のバス利用は無料になることが計画されています。
	特認校を利用する児童のためのスクールバスが欲しいとの要望は多い。また、令和7年度より、児童生徒は市営バスが無償化されるということだが、市営バスは一般の人と共用になるので、不安である。安全確保策の検討を。	特認校の児童のためのスクールバスの導入は考えていません。市営バスの安全確保対策の声があることは、担当課には伝えておきます。
適正化基準	【北部地域の適正化の方向性】では、学校全体で12人未満の場合適正化を推進とあるが、一方で「8 計画の進め方と配慮事項」の「③小規模校の課題への配慮」では特認校就学制度の活用とある。適正化の検討には特認校の利用状況を考慮することはできないか。	地区にある学校は、本来地域に住んでいる子どもたちのための学校であると認識していますが、令和11年度の時点では、特認校制度を利用する児童の人数など総合的に判断していきます。
	確認だが、11年度の時点で12人未満であっても、特認校利用者がいれば考慮することか。	住民基本台帳推計値は、ベースとなります。
	住民基本台帳の人数が減っているのだから、6年後には統合する予定だと言っているように聞こえるが。	猶予期間となっている5年間で、地域や市長部局と連携した移住定住施策など、児童の人数を増やす取組を進めていきたいと考えています。
	住民基本台帳の数値だけではなく、宇部市の水がめを守ってきた小野地区の歴史をふまえた計画を考えてほしい。	(ご要望)
学校施設	小学生のバスの利用状況と、北部地域のバスの接続に関して、JRのダイヤ改正時の連携は。また、仮に統廃合となった場合、今の時点での新設校の立地などが分かれば伺いたい。	小学生のバス利用状況については、教育委員会では把握していません。また、バスの接続については、意見があった旨担当部署に伝えます。今回の適正化計画は、施設一体型の小中一貫校についてのものであり、小学校同士の統合は考えていません。小中一貫校の進め方や場所については現状未定です。
特認校制度	地区では特認校就学制度の活用を図っているが、小規模校の特長を消すことがないよう、大規模校への集中ありきではなく、特認校制度利用者の思いを考慮した臨機応変な取組をしてほしい。	今後も特認校就学制度は推進していくつもりです。そのための制度の見直し等については、令和7年度以降考えていきます。
	特認校活用の実績を考慮してほしい。また、連携する市長部局とはどこになるか。	オープンスクールの取組が特認校や移住定住につながっているので、取組を継続していただき地域に人が住むような方策を共に考えていきます。また、市長部局は主に市民活動課や北部地域振興課になります。
	特認校制度の利用者は地区の住民と同じだと考えている。学ぶ場所の提供も教育委員会の大事な仕事だと思うので、北部地域の適正化については、例えば複式学級の容認などを考えてもよいのではないか。	配慮事項について、概要版では簡略化していますが、WEBサイトに掲載している計画では、地域の実情に合わせた様々な選択肢を検討していくこととしています。

ご意見・ご要望等		回答
特 認 校 制 度	詳細な答申の中で特認校制度の活用をうたっているのであれば、特認校制度の利用者数はカウントすべき。答申の取組とは具体的にはどのようなものか。	特認校制度についてはご意見として承ります。取組には例えば今回の小中学生のバス無料化や移住定住促進施策などがありますが、教育委員会としてどのような取組ができるかについては、今後一緒に考えていきます。
地 域 関 係	小野地区の先人達は、同じ敷地内に小・中学校を作った。また、中学校廃校の際には1,800の存続を求める署名が集まった。そのことを改めて感じてほしい。	小野地区は特認校制度の利用者も多く、また中学校廃校の際の地区の思いを改めて感じました。
	地域の現状をよく把握して物事を進めてほしい。	(ご要望)
	先日バスの1日券を利用したが、購入のためには宇部新川駅の販売所まで行かなければならなかった。料金も高く、バスの利便性も悪いので、市民の利便性を考慮したダイヤ編成等はできないか。	担当の部署にご要望の内容を伝えておきます。
そ の 他	児童数を増やそうという発想はないか。	宇部市の人口は毎年2,000人が減少しており、児童数増に転じるとは考えにくいですが、子育て支援の施策等と連携して取り組んでいるところです。
	小規模校のメリット・デメリットについて、再度整理していただきたい。	メリット・デメリットというよりも、小規模校の特長として、きめ細やかな指導ができる反面、人数が多いとできることが少人数のためできないということがあると考えます。
	審議会の答申では、計画は、令和5年度からの10年間で、令和10年度の時点での児童数の推計を判断するようになっていたと思うが、いつ11年度に変わったのか。また、1学年1学級以上でなくとも複式学級のメリットもあるのではないか。	期間については、計画の始期が令和6年度なので、それに合わせたものです。複式学級のメリットについては、審議会の中でも話があり十分承知していますが、1学年1学級以上という基準は、それを踏まえた上で審議会で決めた基準です。
	審議会の時の説明を改めてここにいる方にしてほしい。	審議会では、北部地域においては1学年1学級以上が望ましいとあり、それを踏まえた計画としていますが、現在、小規模校の良さを生かした教育が実施されているため、11年度までは現状のままとして計画を作成しています。11年度の見直しで目安となる5年後の児童数の推計は、住民基本台帳上の数値としていますが、特認校制度を利用する児童の人数など総合的に判断していきます。
	現在の1年生が6年生になる5年後の11年度、また9年度・10年度の推計値を把握しているか。	本日データとして持ち合わせているのは5年後の数値のみで、11年度の推計は9人になります。
	給食室の統廃合は適正化計画の答申とは切り離してとのことだったが、それはなぜか。	公共施設の見直しの中で、給食提供のサービスは維持しながら、今後も安定した供給を行っていくためのものであり、適正化推進の観点から出たものではありません。

ご意見・ご要望等		回答
区分	【万倉：保護者・地域住民】 令和7年2月10日開催	参加人数 12人
通学支援	特認校で万倉に通いたいという家族がいたが、保護者が送迎の責任を取ることが要件となっていたため、実現しなかったことがある。 通学にスクールバスの活用などの取組をお願いしたい。	特認校制度では通学手段が難しいと思いますが、小野小では、現在9人が特認校制度等を活用して通学しており、地域をあげてPRに努められています。通学の支援について教育委員会も考えていきますが、地域でも万倉小の素晴らしさをPRしていただければと思います。
地域関係	市が進めている立地適正化計画が見直しの時期を迎えているが、学校の適正配置もまちづくりの一つとして捉え、この計画に含めた形で考えていけないか。	ご指摘のとおり、まちづくりと一緒に考えていかないといけないと認識しています。市長部局とも連携しながら、北部地域のまちづくりをどのように考えるのか、担当部署にも共有していきます。
	立熊道路ができて厚東駅のアクセスも便利になったのに、公共交通機関がないのはもったいない。 特に高校生が利用しやすくなるよう、適正配置に含めて検討してほしい。	
	地域にとって子どもは遠い存在になってはいけない。子どもたちが遠い存在になると、地域は加速度的に衰退してしまう。 楠中ができた時に場所が遠くなり、未だに中学校名が地域に浸透していない。統合等となると場所の問題は相当の議論が想定されるので、総合的な判断をお願いしたい。 併せて、タイムリーな情報発信にも努めてほしい。	教育委員会としては、これまで情報発信に努めてきたところですが、届いていないとの声を多くいただきましたので、これからさらに、様々な方法を使って情報発信していくよう努めていきます。
その他	今回の適正配置の計画が出るまでの2年間、自分はコミュの関係で時折り進捗状況を耳にしていたが、地域の多くの方々には情報が入っておらず、驚かれていた。特に保護者にはタイムリーに情報を届けてほしい。	
	保護者としてこの説明会に参加したが、18時半からの開始だと子どもを置いて行けないので参加できないという方が多かった。 仕事をされている方のことを考えての時間設定だと思うが、情報が下りてこないといった声を聞くので、例えば、説明会の内容をユーチューブで限定公開し、いつでも見られるようにするなどの対応も検討してほしい。	情報発信はこれからも課題として考えていますが、例えば参観日や総会等の場に来て説明してほしいということであれば、いつでも対応できるようにしていきます。
	学校の部活動の地域移行の話があるが、市に聞いても「動いていない」とのことだった。 教育委員会として今どのような動きをしているのか、教えてほしい。 学力だけでなく、地域を巻き込んだ子どもたちを育ていく環境づくりについて、どのように取り組んでいくのか、お聞かせ願いたい。	今、地域展開ということで市は昨年度から動いていると聞いています。 文化部についてはあまり動きはなく、運動部については10クラブ近くが移行済み、あるいはその手続き中となっています。 例えば、一つの学校で野球を続けていくのも難しくなっており、2校が合同チームを作って存続を図っているところ。 教育委員会としては学校教育課が窓口になっていますが、要望があれば速やかに対応していきます。
	教育だから子どもが中心と思うが、教員の働き方改革も適正配置に含めて考えているのか。 予算があれば解決すると思っているが、その辺りはどうか。	教育現場の改善については、勤務時間の見直しや新しいドリルを導入するなどの対応を進めており、今、その最終段階を迎えています。 しかしながら、決してそれで終わりではなく、新たな課題が生じれば、適宜対処し、教育環境を整えていきます。

ご意見・ご要望等		回答
その他	学運協に関わっているが、保護者から学校へのクレームなどで教員が授業できる環境にないということも多々生じている。 教職員に今以上の負担が生じないように、教育委員会が環境を整備していかないと教員のなり手もいなくなってしまう。その結果、教員の本来の業務である子どもたちへの教育の質も下がっていくことになるため、今回の適正配置では、ぜひその辺りもしっかりとカバーしてほしい。	(ご意見)
	埼玉県行田市が20校を3校に縮小するという進んでいる。 交通インフラの件も今はスクールバスが使えるのは中学生だけで、国の制度の問題もあるが、小中一貫校を進めるにあたってその辺りの見通しはどうか。小学生も使えるようになるのか。 交通局が設置した(吉部や美祢の)バス路線についての審議会に参加したことがあるが、それらも含めて先行して総合的な交通インフラを市長部局と検討してほしい。	小中一貫校になれば、小学生も対象にすべきと考えています。 交通インフラの整備については難しい側面もありますが、教育とも絡めて協議を進めていきます。
区分	【吉部：保護者・地域住民】 令和7年2月12日開催	参加人数16人
通学支援	楠中で利用しているスクールバスもその通学途中に小学生もいるので、利用できるようになれば非常にいい。	距離の制限や様々な要件もありますが、今後、全てを対象にすることは難しいと考えますが、条件なども検討していきます。
	路線バスが学校に間に合う時間がない。だからスクールバスに乗せてほしい。	ダイヤなども含め、交通施策と併せて検討していきます。
	交通施策課と協議したが、「バスがなければ自転車でいけばいい」と言われた。所管課がバスを減らしていく考えの中でなかなか難しいのではないかな。それを踏まえた上で資料か何かで提示していただけるとわかりやすいと思う。	この度、この適正配置計画を策定したので、今後は交通政策に係る部署とも一緒に協議・検討していきたい。
地域関係	地域からすると小学校の存在は非常に大きい、何より児童のことを考えていかないといけないので全てを理解した上で、地域作りと地域の核である小学校の在り方について、市として北部地域のような分散型の地域に対し、現状は特認校制度などを利用して北部の方にも来てもらえるように進めているが、何か具体的な支援策や手法は他に市としてどのように考えているのか。	特認校については、小野地区が地域や学校がPRを頑張られ、当初はいなかった特認校の利用による児童を現在は9名まで増やされました。特色ある取組みで子どもを育てたいと思われ現在に至っています。それに対して教育委員会としても交通費に対する助成を行ったりしており、今後更に交通施策などとも一緒に考えて特認校制度利用者に対する環境づくりなども考えていきます。
	地域づくりとも合わせた施策を考えてほしい。	(ご要望)
	以前は市の赤いバスが近くまで来ていたが、利用者が少ないとのことで時間が変更になり、通学に吉部地区は保護者が送り迎えをしている所が半分近くある。市から登下校についての方法が通知や連絡もなかった。他市では事前に教育委員会から連絡があり、「おたくはタクシーで通学してください」などの連絡があったと聞いた。今後、吉部地区などに移住を希望される方などの事を考えて、市ではそのあたりはどのように考えられているのか。	市としても様々な条件はあるが、何が求められ、何ができるのかを今後検討していく必要があると考えています。市長部局が取り組む移住政策や交通政策などと一緒に考えていきます。

ご意見・ご要望等		回答
地域関係	学校だけでなく、地域づくり含め、市長部局と一緒に考えて行って欲しい。	市長部局とも連携し、進めていきます。
小中一貫教育	小中一貫校となった場合、教育カリキュラムは現状とどう変わるのか。	現在も小中一貫教育は推進しており、小中9年間を見通したカリキュラムを組んで学習しています。引続き見直しを図りながら小中一貫教育を推進していきます。
その他	北部地域の適正化の方向性について、令和11年度までは現状と何も変わらない考えでいいのか。	お見込のとおり。令和11年に現状及び5年先までの予測値をみながら必要であれば協議を開始していくこととしています。
	北部地域5校が全て適正化の対象校となった場合に5校での統合はあるのか。	計画では、中学校区単位での適正化になるので、吉部地区は楠中エリアでの施設一体型小中一貫校となる計画です。
	楠地区だけで考えるのではなく、北部地域で考えないと学校規模的にも厳しい状況に将来的になってくるのではないのか。	5年後には、更に5年後の推計値がわかるので、そのような声が挙げれば一つの方法として検討は出来ますが、現状は中学校区単位での適正化としており、また、地域のみなさんのご意向などもあるので慎重に進めていきたいと考えています。
	未就学児の母ですが、児童数により今後の見通しが変わってくると思うので、定期的に報告会やこのような場を設けてもらえると有難い。	情報交換の場を設けるなど、情報発信や情報共有をしていきたい。
	本来は、10年前に進めていくべき話だと思うので遅すぎると思っている。できるだけ早く進めて行って欲しい。	(ご要望)
	この話はこれで終わりなのか。今度は5年先になるのか。	本日は計画の説明になるので、今後は皆さん方と一緒にどのような地域づくりを行っていくのかなども含め考えていきたい。
	この場で半年に一度でもこのような会を開催するなど約束はいただけるのか。	どのように皆さんに報告していくかは学校運営協議会等々もあるので、一緒に一番伝わりやすい方法を考えていきます。
	他の地区の意見も情報として流してもらえれば共通の考えも分かり、一緒になって進めていくことも考えられるので、ぜひ他地区の情報も共有したい。	他地区の意見も今後WEBサイトに掲載するなどで共有していきます。